

A型インフルエンザウイルス不活性化効果

第19045863

検査機関： 一般財団法人日本食品分析センター
彩都研究所 微生物研究課

作用液のウイルス感染価測定結果: <2,5 (検出せず)

- 検体: ① 複合金属イオン系消臭抗菌剤(遮光)
② 複合金属イオン系消臭抗菌剤(光照射)

試験 ウィルス	対 象	Log TCID ₅₀ /ml		
		開始時	2時間後	24時間後
インフルエンザウイルス	検体 ①	—	<2.5	<2.5
	検体 ②	—	<2.5	<2.5
	対照(精製水)	6.2	6.5	6.0

TCID50: median tissue culture infectious, 50%組織培養感染量

作用温度: 室温

ウイルス液: 培養液を精製水で10倍に希釈時; <2.5 (検出せず)

ウイルス不活性化効果

検体名: 複合金属系消臭抗菌剤
検査機関: 日本食品分析センター
検査報告書: 第17038808001-0101号

ネコカリシウイルス不活化試験結果:

ネコカリシウスは細胞培養が不可能なノロウイルスの代替ウイルスとして広く利用されている

試験ウイルス	対象	log TCID ₅₀ /mL		
		開始時	2時間後	24時間後
ネコカリシウイルス	検体	—	3.7	<3.5
	対象(精製水)	6.8	6.5	6.3

作用液のウイルス感染価測定結果: <3.5(検出せず)